

～ 人権・同和教育だより ～

「空に風 人に愛」

島根県立浜田高等学校  
定時制・通信制課程

第2号 2020. 5. 29 (金)



## < 人権意識調査（定時制）について >

定時制では、分散登校期間中の5月18日（月）～20日（水）に「人権意識調査」を実施しました。ご協力ありがとうございました。この調査は「学校いじめ防止基本方針」に基づいて行うものです。後日実施する（6月8日に配布予定）「いじめ防止アンケート」と併せて、生徒の皆さんがいじめを受けていないか等を点検し、安全・安心・快適な学校生活を送れるようにするためのものです。実施後は、集計を行い、教職員全員が参加する会議で、生徒の皆さんの状況を確認しています。「いじめを受けている」という回答があれば、必ずすぐに対応します。ここでは、人権意識調査の集計結果の概要をお知らせします。

問1～問11（「いじめ」に関する内容）では、

現在「いじめ」をしていると答えた人は0人でした。一方で、現在「いじめ」を受けていると答えた人が数人いました。いじめた相手（過去）としては、同級生をあげている人の割合が高かったです。

調査前に説明があったと思いますが、された人が心身の苦痛を感じていれば「いじめ」です。

自分は「いじめ」をしているつもりはなくても、ひょっとしたら相手は嫌だと思い、「いじめられている」と感じているかもしれません。一人ひとり、相手の言動によってどう感じ、どう受けとめるかは違います。だから、相手をよく知ることや、相手の気持ちを考える想像力が必要になると思います。

「いじめ」についての考えとして、

- ①「相手がいやな気持ちになる限り、いかなる理由があっても「いじめ」は許されない」を選んだ人よりも
- ②「今の社会や学校の体制が変わらない限り、「いじめ」をなくすのは無理である」を選んだ人の方が多くいました。また、
- ③「『いじめ』にも程度や場合があるので、あまり神経質にならないほうがよい」を選んだ人が、昨年度よりも多くいました。

皆さんには、①の思いを持って欲しいと強く望みます。「いじめ」は許されない、「いじめ」をする人が間違っている、という認識を一人ひとりが持ち、周囲の人たちと関わっていくことで、少しずつであっても社会や学校は変わっていくはずで、人や環境のせいにはせず、自らが変わり、変えていく、そういう意識を持てる人であってほしいですし、嫌な思いをさせられる人やさせた人を見たり聞いたりする人がいない、みんなが安心して気持ちよく過ごせる学校にしていきたい、と思います。

問12～問20では、

身体・動作のこと、家族や家庭環境のこと、勉強やスポーツが苦手なこと、部落差別、就職差別、結婚差別など、本人に責任のない様々な差別について質問しました。

大多数の人が「許せない」と答えた一方で、「仕方がない」「何とも思わない」と答えた人もいました。

「いじめ」と同じく、差別は許されないものです。あきらめたり、傍観したりすることは、「いじめ」や差別を許すことにつながります。「いじめ」や差別に、第三者という立場はありません。同じ集団、社会に自分が存在している限り、全ての人が当事者です。

そのような自覚を持ち、主体的に積極的に「差別をしない」生き方を選択できる人であってほしいです。

問21では、学習したい人権課題について聞きました。

皆さんが選んだ中で特に多かったのは、「障がいのある人」「外国人」でしたが、「子ども」「性的指向、性自認等（LGBT等）」「患者および感染者等」「女性」などを選んだ人も多くいました。

今後、HR活動の時間等を使って、皆さんが様々な人権課題について知り、出会うきっかけを作りたいと考えています。他人事としてでなく自分の事として課題意識を持ち、気づき、行動に移せる人になるために、まずは知ることが一番だと思います。

問22～問24では、

「今の社会や学校・家庭などで自分の人権が保障されていると思いますか」  
「どのような点で、自分の人権が保障されていると思いますか」と聞きました。

「自分の人権が保障されている」と選び、書いてくれた皆さんの答えをいくつか紹介します。

- ・ 自分に関係するたくさんの人々が存在し、互いに協力関係である。
- ・ 自分の思いが言えて、それを実行できる。
- ・ 人としての必要最低限の生活を保障されている。
- ・ 住む場所もある、食べるものもある、着るものもある。
- ・ 人間関係で人権が侵害されていると思ったことがない。
- ・ 自分で選択して決めることができる。
- ・ 相談しやすい環境が整っている。
- ・ 衣食住が保障されており、教育を受けることができている。
- ・ 自分の意見を周りの人が取り入れてくれたり、聞いてくれたりする。
- ・ 毎日学校で勉強して当たり前のように家へ帰る、そんな生活を送れている。
- ・ 家族一緒に食事をしたりテレビを観たりして過ごしている。悩みがあれば相談にのってくれる。



読んでいて、とてもまっとうな人権感覚を持って生きている人が多いこと、日々の「あたりまえ」だと思われる幸せを、自分に保障されている大切なこととして受けとめている人がいることを、うれしく思いました。ぜひ、その感覚を大切にしていってほしいと思います。

人権・同和教育だより4月号でも紹介しましたが、各学期に1回以上、人権・同和教育を主題とするHR活動を実施します。学年によって段階的に目標を立て、それを元に学習内容を担当者や担任で検討し、実施します。

#### 〈目標〉

- (1年) 自他の人権について認識を深め、相互に人権を認め合う姿勢を育てる
- (2年) 様々な人権課題について知り、社会的な偏見や差別を自らのこととしてとらえる
- (3年) 同和問題をはじめとする人権問題について、歴史的・社会的な偏見や差別を自らのこととしてとらえ他と協力して自主的に偏見や差別を解決しようとする力を養う
- (4年) 就職差別や結婚差別を具体的に学び、社会に実在するあらゆる差別や人権侵害を見抜く、人権感覚や態度、実践力を養う

#### 〈内容〉

ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、DVDの視聴などを通して、自分のことを見つめ直したり、相手のことを知ったり、様々な人権課題について知識を得た上で、自らのこととしてとらえ直す機会をもちます。